

「レバー、ユニオン」ハ排日協會並排日諸新聞ノ後援ヲ得テ明春加州議會ニ対シ(一)収獲契約禁止ノ土地法修正案(二)日本人ニ対スル漁業權禁止法案及(三)日本語學校ニ対シ更ニ嚴重ナル制限ヲ加フル法案等ノ諸排日案ヲ提出センガ為メ加州議員ニ対シ折角運動中ナルガ右ハ決シテ在米日本人ノ

利益ヲ害セントスルモノニ非ズンテ唯之ニ依リテ合衆國政府ヲシテ目下合衆國議會ニ提出中ナル移民法案ヲ通過センメ以テ亜細亞人絶対入國禁止ノ目的ヲ達セントスル「アジテーション」ニ過ギス云々ト語リタル趣ナリ不取敢
在米大使へ郵送セリ

事項五 加州排日問題解決ノ為ノ幣原及モリス両大使間協議案關係一件

七九 二月二十二日 牛島在米日本人會會長ヨリ
高橋總理大臣、内田外務大臣宛(電報)

在留邦人家族呼寄禁止協約締結ノ阻止方請願ノ件
(二月二十五日接受)

北米「カリフォルニア」「ネヴァダ」「ユタ」「コロラド」四州在留五万ノ邦人ヲ代表セル本會連絡三十八日本人會代表者會ノ決議ニ依リ謹テ左記ノ件請願ス
紳士協約改正ニ関シ日米兩國ノ間ニ新協商開始ノ場合若シ在留邦人ノ家族渡米ノ禁止ヲ見ルニ至ラハ其ノ影響ニ依リ是等四州在留者ノ社会及産業上ノ基礎根底ヨリ覆リ殆ト収拾スヘカラサルニ至ラン閣下幸ニ吾人等衷情ヲ察セラレ在米十三万ノ同胞ノ為現在以上渡米移民ノ制限ヲ視ルコト無キ様擁護セラレン事伏シテ希フ

八〇 二月二十三日 在ロス・アンゼルス大山領事ヨリ
内田外務大臣宛

日米新協約案成立ニ反対スル南加中央日本人

五 加州排日問題解決ノ為ノ幣原及モリス両大使間協議案關係一件 七九 八〇

會ヨリノ陳情書写送付ノ件

附屬書 二月十六日附右陳情書写

公第四一号

(三月二十三日接受)

大正十一年二月二十三日

在ロス・アンゼルス

領事 大山 卯次郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

日米新協約案成立ニ関シ南加中央日本人會ヨリ

陳情ノ件

本月八日ヨリ十一日迄当地ニ於テ開會セル南加州各地日本人會代表者ニ於テ本件ニ関シ決議致候趣ヲ以テ別紙写ノ通中央日本人會ヨリ閣下ニ陳情方願出候条可然御取計相成度此段申進候 敬具

本信写送付先 在米大使桑港總領事

註 協議案ニ付テハ日本外交文書大正十年第一冊上卷一八二文

書等參看

五 加州排日問題解決ノ為ノ幣原及モリス兩大使間協議案關係一件 八〇

八六

(附屬書)

二月十六日附南加中央日本人会湯浅会長ヨリ在羅府大山領事

宛陳情書亨

日米新協約案成立ニ反対ノ件

大正十一年二月十六日

南加中央日本人会

会長 湯浅 銀之助

在羅府帝國領事館

領事 大山 卯次郎殿

本月八日ヨリ十一日マテ当地ニ於テ開会シタル本会連絡日
本人会代表者会ニ於テ在米日本人ノ家族呼寄ノ件ニ関シ左
記ノ通り決議ヲ通過致候間外務大臣へ進達方可然御尽力相
煩度此段及御願候也

決議文

幣原モリス協約中ノ婦国妻子及両親携帶再渡米不可能ニ
反対ス依テ本代表者会ハ領事ヲ通シテ故国外務省へ此旨陳
情請願ス

其理由左ノ如シ

理由 由

右ノ二理由ニヨリテ妻子両親呼寄禁止協約締結ニ反対ス希
クハ我等同胞ノ憐レナル境遇ニ同情シ我等ノ哀情ヲ諒トセ
ラレ吾人ノ希望ヲ貫徹セラレン事ヲ希望ス

八一 二月二十四日

内田外務大臣ヨリ
在米國幣原大使宛(電報)

日米新協約案ニ付審議再開ノ場合事前ニ請訓

スル様指示ノ件

第六八号

華府電報トシテ当地諸新聞ニ遠カラス貴官ト國務長官トノ
間ニ貴官カ曩ニ「モリス」大使トノ間ニ協定セラレタル協
約案ニ付審議ヲ進メラルヘキ由見ヘ居ル処右ハ何等カノ根
拠アル次第ナリヤ華府會議以前ト今日トハ日米關係上事態
ノ大ニ異ナルモノアルノミナラス華府會議ニテ決定セル諸
條約ニ対スル各國ノ批准振モ尙未定ノ場合ニテモアリ該問
題ニ関スル審議ヲ再開スル時機及方法ニツキテハ篤ト考究
ヲ要スルニ付貴官ニ於テ右御含置ノ上審議再開前一応請訓
セラルル様致シタシ為念

右太平洋沿岸及ホノルル各領事へ転電アレ

五 加州排日問題解決ノ為ノ幣原及モリス兩大使間協議案關係一件 八一 八二

八七

在米同胞独身者ニシテ婦国妻帯再渡米不可能ナリトセハ彼
等ハ在米中ハ遂ニ結婚シ能ハサル悲運ニ遭遇セサルヲ得ス
彼等ニシテ妻帯セント欲セハ再渡米ヲ断念シテ婦国セサル
ヘカラス乍而コハ畜ニ本人其者ノミノ大打擊タルニ止ラス
シテ同胞全体ノ發展上ニ大ナル支障ヲ来シ過去半世紀間ノ
大奮闘ノ歴史ト将来百年ノ大計ヲ一朝ニシテ根底ヨリ破壊
シ去ラレルノ憾アリ

若シ彼等ニシテ同胞發展ヲ希ヒ婦国妻帯ヲ断念スルトセハ
彼等ハ遂ニ一生孤独ノ生活ヲ送り相統者ヲモ得ル能ハス終
生最モ悲惨ナル人生ヲ以テ終リヲ告ケシムル事ハ畜ニ其者
ノ不幸ニ限ラスシテ実ニ人道上ノ大問題ナリト思惟ス之レ
其請願ノ理由ノ一ナリ

在米同胞ニシテ其両親及ヒ愛子ヲ呼寄セ能ハストセハ彼等
ハ遂ニ恩愛アル両親ニ孝養ヲ尽シ愛スル子女ノ教育ヲモナ
シ能ハス且ツ一家団樂ノ内ニ生活シ能ハサル事ハ人生ノ最
大快事ニシテ云フヘカラサル精神上ノ苦痛ヲ感スヘシ畜ニ
之レノミニ止マラスシテ或ハ一生逢フ機会ヲ失シテ死別ノ
悲ミニ人生ヲ終リハセシヤ之レ人道上忍フ能ハサル大問題
ナリト思惟ス即チ其理由ノ第二ナリ

八二 四月二十二日 幣原大使談

加州排日問題解決ニ関スルヒューズ國務長官

トノ會談ニ付テノ談話要領

日米問題ニ関スル幣原大使談話要領

大正十一年四月二十二日 於外務大臣室

出席者

内田大臣 埴原次官 田中次長 赤松書記官

三月二十三日國務卿「ヒューズ」氏ニ面会シ左ノ談話ヲ為
セリ

幣原大使

日米間ノ關係ハ日露戰爭迄ハ理想的ナリシカ其後加州問
題起リ最近ニ至リテハ支那問題、西比利亞問題等相尋テ
起リ兩國間誤解ノ原因トナレリ幸ニ支那問題ハ今回ノ華
盛頓會議ニ依リ支那ニ対スル日本ノ態度ハ略了解セラレ
タルコトト思考スルモ加州問題ハ尙ホ未決ノ儘ニ存シ之
ヲ解決セサレハ稍モスレハ日米間國交ノ円満ヲ阻害スル
虞アルニ付自分ハ赴任以來之カ解決ニ努力シタルモ不幸
ニシテ未タ之カ解決ヲ見ルニ至ラスシテ婦朝スルニ至リ
タルハ誠ニ遺憾ノ次第ナリ就テハ此際右問題ニ関スル貴

見ヲ承知スルコトヲ得ヘキヤ自分ト「モリス」大使トノ協議録ハ御一覽ノ榮ヲ得タルヘキヤ右ニ対スル貴見如何國務卿

加州問題解決ヲ必要トセラルル貴見ニ対シテハ全ク同感ナリ幣原「モリス」協議録モ一読セリ但シ之ヲ讀ミタルハ大部以前ノコトナレハ之ニ対スル感想等ハ今一度熟考シタル上述フルコトト致度シ

三月二十五日更ニ國務卿ニ面会シタルニ國務卿ハ幣原「モリス」協約ニ対スル感想トシテ左ノ如ク語ラレタリ

先ツ協約ノ締結ニ依リテ本問題ヲ解決セントスルハ恐ラク実行困難ナルヘシ米國全体トシテ日本人ニ公正ノ待遇ヲ与ヘントスル意思アルコトハ疑ナキモ條約ヲ以テ之ヲ規定セントセハ州權 (State Right) ノ問題ニ觸レルコトトナルヘシ然ラハ加州トシテハ此問題ヲ捕ヘテ極力條約ニ反対スヘク加州問題ニ利害關係薄キ南部諸州モ州權侵害論ニ対シテハ加州ニ共鳴スルニ至ルヘシ米國上院ノ制度ハ三分ノ一ノ小數ヲ以テ條約ヲ否決シ得ルコトナリ居ルカ故ニ州權問題起ラハ條約ハ到底批准ノ見込ナシ加之例ヘハ最近四國條約ノ上院ニ於ケル討論ニ際シ反対

論者中ニハ友好國ノ感情ヲ害シテ顧ミサルカ如キ不遠慮ナル言論ヲ敢テスルモノアリタルニ徴スレハ右ノ如キ日米條約カ上院ニ於テ討議セラレタル既ニハ如何ナル言論ヲ試ムル者アルヤモ難計却ッテ排日熱ヲ煽ルカ如キ結果ニ終ルナキヤノ懸念ナキ能ハス加州問題解決ノ方法ニ付自分ノ考案トシテハ左記三方法アルノミナリ

一、加州排日ハ要スルニ感情 (sentiment) ノ問題ナリ故ニ甚タ困難ノ問題ニシテ之ヲ解決スルニハ感情ヨリ改善セサルヘカラス最近各方面ヨリ受取リタル書面及電信ニ依リテ見ルニ対日感情ハ全体ニ於テ余程改善セラレタルカ如シ此ノ趨勢ヲ引続キ助長スルニ努メサルヘカラス

二、紳士協約カ忠実有効ニ適用セラレタルコトヲ証明スルノ要アリ加州人ハ該協約ハ失敗ナリシト言フモ自分ノ調査シタル統計ニ依レハ満足ノ結果ヲ示セルカ如シ併シ加州人ハ統計ソノモノヲ誤ナリト稱セルカ故ニ各種統計ヲ發表シ彼等ニ紳士協約ノ効果ヲ充分徹底セシムル必要アリ

三、近來日本側ニ於テ訴訟ヲ起ス者アリ人頭税ニ関スル次第ニテ到底現状ヲ維持シ難キニ依リ所謂感情ノ改善ヲ俟ツ方法ハ不満足ナリ

二、訴訟モ一策ナレトモ訴訟ノ成立スル部分ハ比較的僅少ナリ大部分ハ訴訟成立セス人頭税問題ハ排日問題ニ非ス分益農ノ問題ハ排日ノ一部分ナレトモ枝葉ノ問題ナリ、根本ノ所有權又ハ借地權ニ付テハ訴訟ヲ提起スルモ殆ント問題トナラサルヘシ又米國出生ノ日本人ノ權利ニ関スル訴訟ニ付テ云フモ元來米國出生日本人ノ數ハ多カラス之ニ依リテ日本人ニ対スル差別待遇ノ問題ヲ解決シ得サルナリ故ニ訴訟ハ一方法ニハ相違ナキモ到底之ヲ以テ満足スル能ハス

右ニ対シ國務卿ハ

訴訟カ問題ノ全部ヲ解決シ得サルハ全ク貴見ノ通りナリ然レトモ出來得ルタケ之ニ依ッテ解決スルノ外ナカルヘシ又感情ヲ改善スル間ニ排日ノ蔓延スル懸念アルコトモ誠ニ同感ナリ然レトモ他ニ方法ナキヲ以テ止ムヲ得サルナリ條約ニ依ル方法ノ如キハ實際上不可能ナリト答ヘタリ

更ニ幣原大使ハ

五 加州排日問題解決ノ為ノ幣原及モリス両大使間協議案關係一件 八二

九〇

一般ノ対日感情改善ノ為國務卿ノ努力セラルルコトハ大ニ多トスル所ナレトモ之ヲ従来ノ例ニ徴スルニ甚タ効果ナシ曾テ加州排日法案ノ同州議會ニ提出セラレタルトキ國務卿「ブライアン」氏ハ之カ通過ヲ阻止スル為態々加州ニ赴カレタルカ其結果ハ却テ所謂蠶蛇ニ終レリト述ヘタルニ

國務卿ハ

然リ然レトモ此レ全体ノ situation ニ依ルヘシ今日

ノ如ク一般ニ感情ノ改善セラレツツアル際ニ國務省カ尽力セハ其効果ハ見ルヘキモノアルヘシト答ヘタリ

尚ホ幣原大使ハ先般華府會議ノ際多數ノ日本人食堂「ボーイ」ヲ雇入レタルカ試ニ其内旅券ヲ有スル者何人アリヤヤ問ヒタルニ殆ント全部無旅券者ナルヘシトノ答ヲ得タリトテ密入国及脱船ヲ阻止スル方法ナカルヘキヤト述ヘラレタリ

事項六 日米両国有志懇談会關係一件

八三 七月七日

在桑港矢田総領事ヨリ
内田外務大臣宛

加州日本人問題解決ヲ目的トセル日米有志ノ

懇談会ノ模様報告ノ件

機密公第一九号

(八月七日接受)

大正十一年七月七日

在桑港

総領事 矢田 七太郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

日本人問題ニ対スル懇談会ニ関スル件

目下当地滞在中ナル大阪基督教青年会幹事 Dr. Gleason
ノ發起ニテ加州日本人問題ノ解決ニ資センカ為先般来当地ニ於テ V. S. McClatchy 当地労働同盟協会幹事 Paul
Scharrenberg, Bishop Parsons, Dr. Guy 日米新聞
社長安孫子(「イクラッチー」)主人役ノ時同人ノ希望ニテ
加(タル由)及 E. Clemens Horst & Co. 社長 E. C.

六 日米両国有志懇談会關係一件 八三

Horst 等ト懇談会ヲ開キ互ニ意見ノ交換ヲ行フコト既ニ

数回ニ及ヒタル次第ナルカ最初二回ノ會合ニ於テハ別ニ報告スルニ足ル程ノ具体的發展モ見エサリシ処其後回ヲ重ヌルニ從ヒ参考トスヘキ意見モ顯ハレタルノミナラス「マクラッチー」ニ於テモ真意ハ兎ニ角表面丈ニテモ漸次我方ノ立場ヲ了解スルニ至レル様見受ケラルルトノコトナルニ付「ガイ」ノ報告ニ基キ其ノ大要左ニ報告申進候

記

卯六月三日第三回會合ニ於テ E. C. Horst ヨリ左ノ如キ珍奇ナル花嫁解決案ヲ提出シタリ(同人ハ目下地方ニ於テ大規模ニ「ホップス」栽培ヲ行ヒ且ツ当地ニ於テ「ホップス」及「バレー」ノ輸出ヲ業トセル実業界ニ於ケル有力者ナルカ日本人問題ニ対シテハ多年研究スル所アリ之ニ関スル意見モ公表セシコトアル人物ニテ極端ナル排日家ニアラスト認メラル)

吾人ハ自衛上布哇ニ於ケル日本人口ヲ減少セシムルト共ニ

九一